

こころのはな



1年生「しぜんとなかよし」～自然愛護～

『しぜんとなかよし』は、「ふるさとがはぐくむどうとくいしかわ」に掲載されています。道徳の時間では、「ふるさとがはぐくむどうとくいしかわ」を使って石川県の豊かな自然や風土、日々の暮らしの中に受け継がれている歴史や伝統文化について学習します。

このお話の主人公は、生まれて初めて白山に登った女の子です。登山ですぐに足が痛くなりますが、途中でお父さんに励まされながら、なんとか登っていきます。そして、休憩中に見た花々や鳥の鳴き声に驚き、白山にはいろいろな生き物が住んでいることを知ることができたというお話です。

授業の最初に「白山って知っているかな。」と聞いてから、映像資料を見ました。子ども達からは「白山って聞いたことある。」「テレビで見たことある。」「クロユリって石川県の花や。」などの声が聞かれました。そして、『しぜんとなかよし』を読んだ後、「白山に登る途中で休んだ女の子は、どう思いましたか。」と聞くと、「花を見たら元気になったと思います。」「きれいな景色が見えて、いい気持ちだと思います。」という発言が聞かれました。授業の終わりには、「白山の中で、花も鳥も人間も一緒に生きている。」ということをみんなで考えました。自然を大切にすることを考えるよい機会となりました。



学習の振り返りから

- しぜんは、だいじです。はなもとりのだいじです。
- やまにのぼりたくなりました。やまはすごいですね。しぜんもすごいです。
- めずらしいはなたちが、きれいでした。どうぶつたちがげんきにいきっていてよかったです。
- はくさんに、にほんざる・にほんかもしか・いぬわし・あさぎまだらがいるとしりました。
- いろいろなむしやおはなやいきものがたくさんいきているから、べんきょうになりました。
- やまにのぼるといいきぶんだし、いいきもちになります。